

# News Letter

## Joining & Welding Research Institute

- ◆ 月面都市開発研究センター設立記念シンポジウム開催
- ◆ 第2回 接合科学研究所 定例記者発表
- ◆ 行事報告、ニュース
- ◆ お知らせ
- ◆ 受賞・人事
- ◆ 編集後記

[Contents](#)

## 月面都市開発研究センター設立記念 シンポジウムの開催

広報データ管理室 （兼）月面都市開発研究センター  
URA 森下 麻紗代

令和7年7月30日（水）に大阪大学月面都市開発研究センター開設記念シンポジウムが産業科学研究所にて開催されました。大阪大学には、月面で直面する多様な課題に対応可能な研究シーズを持った研究者が複数の部局にまたがって数多く在籍していますが、それらの知見を一層結集して研究力を強化する目的で本年5月に月面都市開発研究センターが設置されました。センターの名称は接合科学研究所の藤井英俊所長による命名で、本年12月現在、当研究所の教員6名およびURA1名が兼任で所属しており、センター内で最多人数の部局になっています（センター全体で24名）。

本シンポジウムには大きな注目が集まり、会場には91名、後日動画配信視聴希望は84名に達しました。日刊工業新聞など各種メディアにも大きく取り上げられ、月面都市開発研究への期待が改めて感じられました。当日のプログラムは、電気化学、植物科学、月の石（レゴリス）の分析、培養肉など幅広い分野をカバーしており、接合科学研究所からは藤井英俊所長が宇宙溶接および1万人が居住可能な月面都市構想、塚本雅裕教授が太陽光集光技術および宇宙AM（Additive Manufacturing）、そして接合科学研究所がお招きした株式会社大林組技術本部未来技術創造部の瀧田安浩担当部長が大林組の宇宙の取組みについて講演を行いました。その他、理学研究科の寺田健太郎教授によるレゴリスの展示、接合科学研究所の藤井英俊所長による無重力溶接の展示も行われ、長い行列ができ、来場者の関心の高さがうかがえました。質疑応答の時間が十分に取れないほどの盛況ぶりで、講演終了後も参加者が講演者の周りに集い、活発な議論や情報交換が行われていました。

昨今、民間企業による月着陸船の月面着陸チャレンジやロケット打ち上げなど宇宙産業が活発化する中で、接合科学研究所が持つ世界トップレベルの様々なシーズや多様な企業との強固な産学連携基盤が今後の月面都市開発研究をさらに加速させる原動力になることを期待しています。



藤井所長の講演



塚本教授の講演

## 報 告

## 第 2 回 接合科学研究所 定例記者発表

大石 萌可

事務部 庶務係

2025 年 8 月 27 日に大阪大学中之島センターにて、接合科学研究所 定例記者発表を開催しました。第 2 回目となる今回は、3 つのテーマについて発表しました。まず初めに、藤井英俊 所長が開会挨拶の後、研究所近況報告として、AM(Additive Manufacturing)、および 月面 1 万人都市構想に向けた独自技術開発の取り組みについて紹介しました。本年 5 月に本学産業科学研究所に設置された「月面都市開発研究センター」には、本研究所から最多の教員・研究者が参画し、接合研の持つレーザ技術、AM 技術などの独自開発技術をもとに、研究に取り組んでいる状況を説明しました。

次に、桐原聡秀 教授が「AM 技術者の国内/国際認証制度」をテーマに発表を行いました。産業調査を通して、AM 実践における体系的な知識習得の重要性を再認識し、接合科学研究所が（一社）日本溶接協会の活動を全面に支援する形で、AM 技術者の国内ならびに国際認証制度を設立しました。国内初の AM 技術者（2 級）研修会が 2025 年 3 月に東京で開催され、9 月には大阪でも開催されます。今後は、大阪大学の大学院高度副プログラムとして AM 講義群を開講するとともに、社会人を対象としたコースも別途開設し、グローバル AM 人材の育成を図る予定です。

最後に、麻 寧緒 教授が「船舶補修への応用を目指した新溶接施工法の開発」をテーマに発表を行いました。低変態温度(LTT: Low Transformation Temperature)を用いる新しい溶接施工法「LTT 伸長ビード溶接法」の開発により、船舶の耐用年数 25 年の間での再補修フリーを実現し得る「従来より 4 倍以上の疲労寿命延伸」を達成しました。この溶接施工法は、株式会社三和ドック、長崎総合科学大学および株式会社神戸製鋼所と共同で開発され、当日は共同開発者の株式会社三和ドックの技術者の方や平岡和雄先生にもお越しいただきました。

記者発表後も記者の方からたくさん質問をいただき、有意義な時間となりました。今後も定期的な記者発表の開催を行い、溶接・接合科学の研究成果を積極的に発信することに取り組んでまいります。



麻寧緒教授 藤井英俊教授 桐原聡秀教授



会場の様子



## 報 告

2025 年度 NEDO 特別講座シンポジウム  
-接合技術の最前線に触れる！-

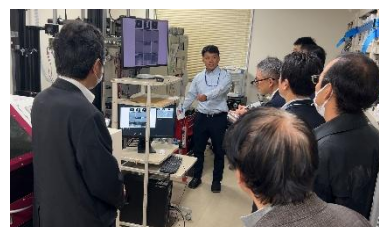
青木 祥宏

接合機構研究部門 接合界面機構学分野 特任講師

2025 年 11 月 10 日、「2025 年度 NEDO 特別講座シンポジウム」を大阪大学接合科学研究所にて開催しました。本シンポジウムには、NEDO プロジェクト参画機関をはじめ、企業・大学・研究機関など多方面から総勢 46 名の参加があり、接合・材料技術の最前線について理解を深める大変貴重な機会になったと思います。参加者のバックグラウンドも多様で、専門分野の垣根を越えた議論が自然と生まれる、非常に活気ある雰囲気となりました。

シンポジウムは、荒田記念館において、NEDO バイオ・材料部 青柳将ユニット長による講演から始まりました。講演では、革新的新構造材料等研究開発で得られた成果を概説頂くとともに、マルチマテリアル化に向けた材料設計・接合技術・評価技術を横断した取り組み、さらには今後の技術的課題や産業界に期待される波及効果についても丁寧にご説明頂きました。NEDO 事業の全体像と将来戦略を直接伺う機会として、参加者にとって大変示唆に富む内容となりました。続いて、藤井所長より大阪大学接合科学研究所の研究紹介が行われました。紹介では、固相接合（LFW・CSJ など）による難接合材への挑戦から、青色レーザー AM、セラミックス AM および固相 AM といった 3D プリンティング分野の先端技術、さらには将来を見据えた月面都市開発プロジェクトまで、研究所が展開する幅広い研究テーマが体系的に示されました。その後の研究所見学ツアーでは、LFW 装置や青色レーザー AM 装置、多次元造形研究センターのセラミックス AM 装置など各種装置を紹介するとともに、それらの装置を用いたデモンストレーションをご覧頂きました。研究所の研究内容を“実際の装置を通して体感できる”こともあり、「技術の具体的なイメージが掴めた」、「設備のスケール感や運用の様子が理解できた」といった好意的なご感想を多数頂きました。普段は見る機会の少ない先端設備を間近でご覧頂いたことは、参加者にとって大きな魅力であったと思われます。そしてポスターセッション・懇親会では、接合・接着技術、疲労・水素脆化、軽量金属の腐食、CFRP 成形技術、量子ビーム計測、LCA およびマルチマテリアルトポロジー最適化など、NEDO 特別講座の各拠点が取り組む多岐にわたるテーマの成果を共有しながら活発な質疑が行われ、研究者同士の深い情報交換が進むとともに、異分野連携の可能性を見出す場にもなりました。

本シンポジウムを通じ、技術拠点間の連携強化に加え、産学官の新たな交流の場を提供することができ、大きな意義を持つ会となりました。今後も本特別講座と連動させながら、接合技術およびマルチマテリアル化技術の社会実装に向けた取り組みを着実に推進してまいります。最後に、本シンポジウムの開催にあたり多大なるご協力を賜りました NEDO をはじめ、技術拠点の皆様、ならびに接合科学研究所の皆様にご心より感謝申し上げます。



## 行事報告

## 第 15 回ベトナム溶接研究会

勝又 美穂子

グローバル D&amp;I 推進室 准教授

2025 年 5 月 29 日、第 15 回ベトナム溶接研究会をハノイで開催しました。第一部については昨年 11 月に開所した接合科学研究所 HUST-UOsaka に皆様をお迎えしての開催となりました。研究会には約 35 名の参加者があり、盛況となりました。

第一部では当研究所の門井浩太准教授より「異種材料の溶接接合」について様々な異種材料を溶接接合した場合の各状態の変化などについてその研究をご発表いただきました。第二部ではハノイ北西に位置するタンロン工業団地にある MHI アエロスペースベトナム社を訪問し、工場見学などを実施しました。同社は航空機メーカーから受注し、機体の一部をベトナム工場で製造しています。ベトナムでの創業以来、求められる品質に到達し維持するために、並々ならぬ教育の提供と人材の育成が行われて来たことが強く理解できました。部品の管理や製造ラインの見える化が徹底された工場内に参加者は興味深く拝見しました。



## JICA 草の根事業 第一回本邦研修

勝又 美穂子

グローバル D&amp;I 推進室 准教授

接合科学研究所では 2024 年度より国際協力機構（JICA）の支援を受けて、ハノイ工科大学と共に草の根技術協力事業を開始しました。同事業は「ハノイ工科大学における溶接管理技術者育成能力向上」を目指し、5 年間実施されます。同活動の一環として毎年 1 回、3 年間の予定で、ハノイ工科大学の教職員が日本での研修活動に参加します（以下、本邦研修）。

本年度は 7 月 28 日～8 月 3 日の日程で 6 名のハノイ工科大学教職員が本邦研修に参加しました。本学での実践的な機材利用研修、共同利用共同研究拠点制度に関する講義、関西万博訪問、群馬県に位置する東亜工業訪問（自動車ボディ製造等）、埼玉大学溶接関係の研究室訪問、日本溶接協会との面談など、すぐに活用できる実践的な研修から、今後の活動展開に向けた関係構築まで、充実した 1 週間を過ごしました。



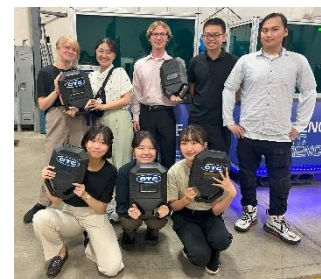
## カップリング・インターシップ（CIS）活動報告（アメリカ）

勝又 美穂子

グローバル D&amp;I 推進室 准教授

8 月 10 日～8 月 20 日で、アメリカオハイオ州ティップシティの DAIHEN Inc.にてカップリング・インターンシップ（CIS）を行いました。参加学生は、大阪大学工学部、工学研究科、薬学部、外国語学部の各 1 名、オハイオ州立大学（OSU）工学研究科、人文学部各 2 名、の計 8 名でした。

初日は事前研修を行い、12 日からの 4 日間は DAIHEN Inc.にて企業紹介、社員とのインタビュー、溶接ロボット操作やマニュアル溶接の体験を通して学習しました。学生は、実習テーマ“The Future of Work in Manufacturing – Skills, Culture & Technology”に関して様々な視点から社員の皆様に質問しました。企業研修最終日には同社パートナーの Force Design Inc.（システムインテグレーター）を訪問しました。8 月 18 日には最終報告会を OSU にて実施し、日米の文化比較、米国市場での同社の強み、ブランド認知向上のため等、考察の結果を発表しました。企業の皆様及び OSU の学生達の温かい支援や異文化理解への真摯な姿勢もあり、参加した本学学生も積極的に取り組むことが出来ました。





## 行事報告

## カップリング・インターシップ (CIS)活動報告 (ベトナム)

勝又 美穂子

グローバル D&amp;I 推進室 准教授

9月14日～9月23日の期間、ベトナムにてカップリング・インターンシップ (CIS) を実施しました。ベトナムでの実施は11回目となり、今回受け入れていただいた IHI Infrastructure Asia (IIA) ではコロナ期のオンライン開催2回を含め、9回目となりました。参加者は、本学工学研究科、外国語学部各2名、ハノイ工科大学 (HUST) 機械工学部、産業経済学部各2名の計8名でした。

9月16日からの4日間はIIAにて、CISテーマの「特殊鋼構造物の製造業において若者に魅力ある企業にするには？」を念頭に役割や役職の異なる多くの皆様とのインタビューや講義を通して学びました。更に、溶接作業やガス切断実習、現在建設中の現場見学、最近開通した橋梁見学も実施しました。9月22日 HUST での最終報告会では、若い世代が職業選択の際に重視すること、その点と現状の一致と乖離の考察、同企業や同産業の魅力の整理と若い世代へのアウトリーチの方法など、自分たちの耳で聞き、目で見て収集した情報に基づきまとめ上げました。



## 接合科学研究所同窓会 第5回総会およびサマーフェスタ

山下 享介

接合機構研究部門 接合界面機構学分野 助教

2025年7月26日(土)に大阪大学接合科学研究所同窓会の2025年度総会(第5回総会)および近況報告会(サマーフェスタ)が開催されました。前回に引き続き対面+オンラインのハイブリッド形式での開催となりました。今回は登壇者を含む47名の方にご参加いただきました。総会は役員紹介から始まり、上山智之会長からの開会挨拶の後、同窓会の活動内容の報告および接合研の近況報告がなされました。サマーフェスタでは、はじめに本研究所の梅田純子教授から JWRI 女会やダイバーシティ活動に関する紹介がなされました。その後、学生近況報告として、松崎匠氏および小坂朋生氏からそれぞれ自己紹介や最新の研究内容についての報告がなされました。卒業生近況報告として、龍谷大学の森正和准教授から、自己紹介としてご自身の学生時代の話や龍谷大学のご紹介など幅広い話題についてお話いただきました。最後に話題提供として本研究所の田中学教授から大阪大学の2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)における活動や予定をご紹介いただきました。いずれも大変興味深いお話であり、会員同士の親睦を深める貴重な機会となりました。最後に藤井英俊所長から閉会の挨拶がなされました。引き続き、皆様の同窓会へのご参加をお待ちしております。

## 女性技術職員の夏休み子供サイエンス 2025

植原 邦佳

技術部 技術専門職員

2025年8月7日、「親子で遊ぼう 女性技術職員の夏休み子供サイエンス 2025」が開催されました。本イベントは、「子供たちとその保護者へサイエンスの面白さを伝えることで、将来の理系人材の芽を育むこと」を目的に、本学の女性技術職員が主催したものです。参加した小学3・4年生の子供たちと保護者は、分光筒作りや光の観察、「研究者」になりきった研究発表を体験しました。また、接合科学研究所では、青色レーザーを使った金属 AM 装置や摩擦攪拌接合装置、走査電子顕微鏡など、最先端技術を見学しました。子供たちは大きな実験装置に驚きながら、銅の積層造形や接合の様子を目を輝かせて見つめていました。本イベントを通じて、接合科学研究所の見学が身の回りの溶接・接合技術に目を向けるきっかけとなれば、大変嬉しく思います。



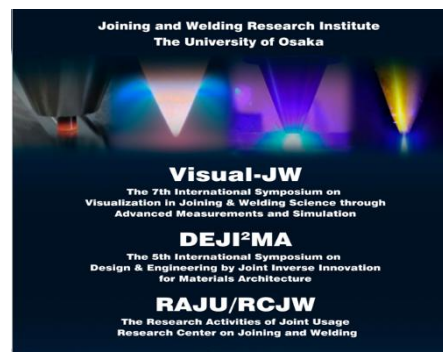
## 行事報告

## Visual-JW2025

桐原 聡秀

多次元造形研究センター 積層造形学分野 教授

国際会議 Visual-JW を、2025 年 10 月 1 日～2 日にかけて大阪大学中之島センターで開催した。溶接接合現象の可視化をテーマに、接合科学研究所が主催する国際会議であり、今回で第 7 回を数えた。6 研究所連携プロジェクト発表会ならびに共同研究成果発表会も併催し、国内外より 180 名の参加者が複数のセッションで研究発表ならびに討論を繰り広げた。招待講演から一般講演に至る 150 件の発表がなされ、最新の溶接接合プロセスに関する学術知見や最新技術が公開された。最終日の午後には積層造形に関するセッションも企画され、金属のみならずセラミック材料も対象とした、様々なプロセスが紹介され、活発な討論が繰り広げられた。

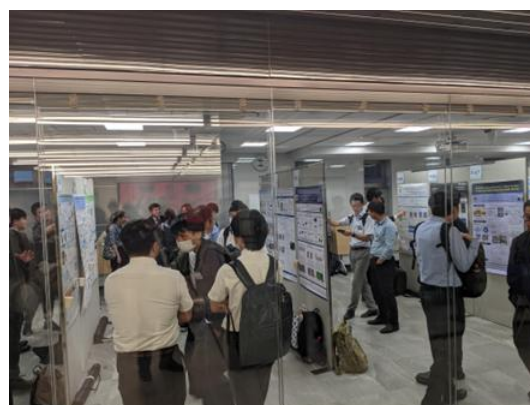


## 第 5 回 DEJI²MA 国際会議

阿部 浩也

研究所間連携戦略室 教授

国際・産学連携インヴァースイノベーション材料創出プロジェクト (DEJI²MA プロジェクト) の第 5 回国際会議 (The 5th International Symposium on Design & Engineering by Joint Inverse Innovation for Materials Architecture (DEJI²MA-5)) が、2025 年 10 月 1 日 (水) に大阪大学中之島センターにおいて、Visual-JW2025 との共催で開催されました。DEJI²MA-5 のセッションでは、国内外の研究者から 12 件の招待講演が行われ、最先端の研究結果が報告されました。その後、ポスターセッション (67 件) が行われました。Visual-JW に参加の国内外の研究者とも活発な議論が交わされ、インヴァースイノベーション材料創出のための大変有益な機会となりました。



## 令和 7 年度 共同研究成果発表会

田中 学

接合プロセス研究部門 エネルギー制御学分野 教授

本研究所は接合科学共同利用・共同研究拠点として、共同研究員により得られた研究成果を広く一般に公開するために、共同研究成果発表会を毎年開催しています。令和 7 年度は、本学中之島センターにおいて開催されました本研究所主催の国際会議 Visual-JW2025 と共催し、10 月 2 日に同センターにて実施されました。共同利用・共同研究拠点における共同研究成果を海外に向けて発信する絶好の機会であり、英語による口頭発表が行われました。共同研究成果発表は Visual-JW2025 の招待講演として発表され、7 名の共同研究員にご登壇をいただきました。海外からの研究者も多数参加し、活発な議論がなされ盛会のうちに無事終了しました。





## 行事報告

## 2025 大阪大学共創 DAY@EXPOCITY

池田 倫正

接合評価研究部門 接合組織評価学分野 教授

2025 年 10 月 18 日 (土)、EXPOCITY にて開催された大阪大学共創 DAY『五感をシゲキ、未知のマナビ体験』において、接合科学研究所は『ミライを感じる「つなぐ」体験』と題した接合体験ブースを出展しました。毎年、はんだ付けによるスタンドグラス製作を通して、溶接・接合技術を身近に感じてもらうことを目的に出展していますが、共創 DAY の中でも大人気のブースとなっています。今年もはんだ付け体験は事前予約制としましたが、予約は満席、当日は約 120 名の来訪があり、接合科学を知っていただくよい機会を提供できたと考えています。



## 第 1 回 北大工学研究院－阪大接合研 交流会

芹澤 久

ニューノーマルものづくりコンソーシアム室 教授

2025 年 10 月 29 日 (水)、北海道大学院 工学研究院 共用実験棟 2 階 GX スタジオで、本研究所と北海道大学大学院工学研究院との初めての交流会を開催しました。本研究所の更なる発展に向けた活動の一つとして、それぞれが持つ研究シーズを持ち寄り、将来の相互連携ならびに新たな研究テーマの発掘を目的として、本交流会を開催しました。本研究所からは、藤井所長、佐藤准教授、竹中准教授、小澤助教、小生の計 5 名が参加し、藤井所長の「月面 1 万人都市」をはじめとした、それぞれの研究シーズが紹介されました。北大工学研究院からは、幅崎工学研究院長に加えて、佐藤副研究院長、米澤教授、大野教授、松島准教授、高橋准教授、田島准教授の計 7 名が参加され、大野教授の「計算材料科学による溶接部の組織予測」、松島准教授の「月面基地における水素エネルギーシステムの展開」、佐藤副研究院長の「植物の形態に学ぶユニークな材料力学研究」など、材料学、エネルギー学、生物工学など、幅広い研究シーズが紹介されました。引き続き、新たな相互連携の発掘に向けて 2026 年 3 月 26 日 (木)、阪大 東京オフィスにて第 2 回の交流会を開催する予定です。

## 2025 年度 JST さくらサイエンスプログラム

勝又 美穂子

グローバル D&I 推進室 准教授  
麻 寧緒

接合評価研究部門 接合構造化解析学分野 教授

2025 年 11 月 26 日～12 月 16 日の 21 日間、JST さくらサイエンスプログラムにより海外の学生 2 名（清華大学 1 と上海交通大学 1 名）を接合科学研究所に受け入れ、麻研究室にて活動を行いました。参加者は事前に受け入れ研究室の指導教員と連絡を取り、当研究所滞在中に、応力ひずみの測定試験や溶接力学の数値シミュレーションを体験しました。滞在最終日となった 12 月 15 日 (月)の報告会で、参加者は研究活動による成果と文化活動による所感を報告しました。帰国後、本さくらサイエンスで得られた研究成果と継続研究成果を整理して、国際共著論文の発表に向けて準備が進められます。接合研は、今後も国際交流と国際共同研究の推進に貢献し続けます。



## 行事報告

## 第 7 回 出島コンソーシアム・セミナー

阿部 浩也

研究所間連携戦略室 教授

国際・産学連携インヴァースイノベーション材料創出プロジェクト（DEJI2MA プロジェクト）第 7 回出島コンソーシアム・セミナーが、2025 年 11 月 26 日（水）、名古屋大学 ES 総合館にて開催されました。今回のテーマは「バイオ・医療機器材料の新展開」でした。冒頭、セミナー世話人である名古屋大学未来材料・システム研究所の長田 実先生より開催の挨拶があり、その後、基調講演 1 件、招待講演 2 件、6 研による研究シーズ発表 3 件が行われました。各講演後には活発な質疑応答が交わされ、続く情報交換会では、今後の連携や社会実装に向けた議論が深められ、大変有意義な機会となりました。参加者は 45 名で、セミナーは盛況のうちに終了しました。



## 第 16 回ベトナム溶接研究会

勝又 美穂子

グローバル D&amp;I 推進室 准教授

2025 年 11 月 27 日、第 16 回ベトナム溶接研究会をハノイで開催しました。今回は研究会でも初の取り組みである、ベトナムの大学訪問を実施しました。研究会には約 35 名の参加者があり、盛況となりました。

訪問したのは、ハノイ・ハドン地域に位置する私立大学、Phenikaa 大学です。Phenikaa 大学は前身の大学から 2018 年に Phenikaa 大学へ変更となり、それ以降、教育、研究、学外連携などにおいて活発な活躍を見せている大学です。学生数は約 35,000 人です。外国語学部には日本語専攻もあり、当日は 2 年生と 4 年生の日本語授業見学も行いました。参加企業からの質問に対しては、恥ずかしがりながらも、「日本の景色が大好きなので日本語を勉強しています」等の回答がありました。

その後、機械工学部のオートメーション・自動車実験室や機械加工室等を見学しました。実験室には自動車の内部が見えるよう車体を切断したモデルやエンジンなども多く配置されており、また、充実した機材設備により実践的な教育が実施されていることが理解できました。更に施設見学後には、情報交換の場が設置され今後の連携強化に期待する言葉がありました。短い時間でしたが、ベトナムの私立大学を牽引するこれからの大学像を垣間見ることができ、有意義でした。

## 東京セミナー

巽 裕章

接合プロセス研究部門 微細接合学分野 准教授

2025 年 12 月 3 日に大阪大学 医学・工学研究科東京ブランチにて、接合科学共同利用・共同研究拠点 大阪大学接合科学研究所 令和 7 年 東京セミナーが開催されました。田中副所長からの開会の挨拶の後、「軽金属材料の同種・異種線形摩擦接合（広島大学 崔正原先生）」と「ショットピーニング残留応力・曲げ変形の測定と固有ひずみによる予測（広島工業大学 太田高裕先生）」の 2 件について接合科学共同利用・共同研究賞が授与されました。その後、受賞者のお二人から受賞講演がなされました。後半では令和 4 年度から 3 年間実施した先導的重点課題「特異な構造を内包したマイクロ接合部の高機能・高信頼化に関する研究」に関連した研究として、「金属/樹脂および金属/金属界面の設計と評価—接着性評価手法と高耐熱接合材の開発—（群馬大学 小林竜也先生）」および「シミュレーションによる多結晶材料のミクロ組織形成・特性解析（大阪公立大学 三好英輔先生）」に関するご講演をいただきました。最後に巽より、マイクロ接合部の界面評価へのシミュレーション活用事例に関する研究成果をご紹介しました。今回は所内外から 37 名の方にお越しいただき、いずれのご講演でも活発な議論がなされました。



## 行事報告

## 接合科学研究所 第 21 回 女性の会 (JWRI 女会)

梅田 純子

グローバル D&amp;I 推進室 教授

11 月 11 日 (火) に第 21 回 JWRI 女会を開催し、教職員 23 名、学生 7 名の計 30 名が参加しました。半年ぶりの開催となり、参加者同士の親睦を温かく深めるひとときとなりました。「メンバーをより深く知りたい」という要望に応える形で、3 名の方が登壇しました。最初に、長年在籍している事務補佐員の方より、「本が好き・言葉が好き！私（ひと）とは、なに？」と題して、好奇心を原動力に多彩な講座に挑戦してこられたこれまでの経験を、楽しげにお話しいただきました。続いて、博士前期 2 年生の 2 名が登壇し、それぞれの日常の楽しみや趣味について、リラックスした雰囲気の中で紹介してくださりました。いずれの発表も、普段は何うことのできない一面を知る機会となり、参加者からは驚きや共感の声が上がりました。研究所内で気負わずにコミュニケーションを取れる関係性が築くことができ、安心して学び・働くことのできる環境づくりへとつながりました。

## 2025 年度 「接合科学賞」・「接合科学奨励賞」授賞式および受賞記念講演

芹澤 久

ニューノーマルものづくりコンソーシアム室 教授

2025 年 11 月 25 日に第 4 回接合科学賞・接合科学奨励賞授賞式および受賞記念講演を、荒田記念館（大阪大学・接合科学研究所）にて執り行いました。本賞は接合科学研究所創立 50 周年を記念して設立され、国際的に溶接・接合に関する学術に顕著な業績があり接合科学の発展に多大な貢献をした研究者と、溶接・接合に関する学術で国際的な業績があり今後の学術の発展に資すると期待できる新進気鋭の若手研究者をそれぞれ表彰することで、接合科学の一層の発展に資することを目的としています。本年度は、以下の受賞者に各賞を授与しました。

## 接合科学賞

受賞者： Dr. John Goldak (President, Goldak Technologies Inc. /  
Professor, Carleton University, Canada)

研究業績：Contributions to the development and education of numerical researches in welding mechanics

## 接合科学奨励賞

受賞者： Dr. Ghazal Moeini (Professor, Westphalian University of Applied Sciences, Germany)

研究業績：Joint integrity evaluation of welded additive manufactured aluminum components; Experiment and Simulation

受賞者： Mengran Zhou (Assistant Professor, Tsinghua University, China)

研究業績：Mechanism of simultaneous optimization of mechanical and corrosion properties of friction stir welded Mg alloy joints

授賞式においては、最初に各賞の選考経過が報告されたのち、Dr. John Goldak 氏からビデオ配信にて、受賞に係る研究トピックを見出すまでの背景を、当時の時代背景を踏まえてご講演頂きました。Dr. Ghazal Moeini 氏ならびに Dr. Mengran Zhou 氏からは、対面で受賞に係る研究トピックの概説から今後の展望までをご講演頂きました。接合科学研究所は、これらの名誉ある受賞を心より祝福し、この式典が今後の接合科学分野の学術研究の発展の契機となること、ならびに本賞が接合科学分野において権威ある賞になることを期待しております。



## 各種賞受賞者等

受賞日	受賞者（所内）	賞等の名称	授与団体
2025 年			
5 月 19 日	木内 夏美（院生）	講演奨励賞	溶接学会軽構造接合加工研究委員会
5 月 23 日	佐藤 雄二, 竹中 啓輔, 塚本 雅裕	2024 年度マイクロ接合優秀研究賞	（一社）溶接学会 マイクロ接合研究委員会
5 月 28 日	刈屋 翔太, 市川 絵理（院生）, 寺前 拓馬（院生）, 近藤 勝義, 梅田 純子	粉体粉末冶金協会論文賞	（一社）粉体粉末冶金協会
5 月 30 日	吉田 怜史（終了生）	優秀論文発表賞	（一社）レーザー学会
6 月 2 日	塚本 雅裕	レーザ加工学会誌ベストオーサー賞	（一社）レーザ加工学会
6 月 2 日	佐藤 雄二	レーザ加工学会誌ベストオーサー賞	（一社）レーザ加工学会
6 月 13 日	吉田 環（院生）	The HPL2025 Outstanding Paper Award	LAMP2025
7 月 10 日	仲谷 将史（院生）	優秀ポスター賞	（一社）レーザ加工学会
8 月 7 日	古免 久弥, 田中 学	溶接アーク物理研究賞	（一社）溶接学会 溶接法研究委員会
8 月 10 日	Li Weihao（院生）	Poster Award	2025International Conference on Welding Science and Engineering(WSE2025)
8 月 10 日	Zhang Renzhi（院生）	Poster Award	2025International Conference on Welding Science and Engineering(WSE2025)
9 月 25 日	加瀬部 隆太（院生）	優秀ポスター発表賞	（一社）軽金属溶接協会
10 月 14 日	小澤 隆弘	第 8 回（2024 年度）APT Outstanding International Contribution Award	粉体工学会
10 月 16 日	近藤 勝義	令和 7 年度環境大臣表彰「廃棄物・浄化槽研究開発功労者」	環境省
10 月 16 日	吉田 環（院生）	ICALEO2025 Student Paper Award 2nd Place	The 44th annual International Congress on Applications of Lasers & Electro-Optics (ICALEO2025)
3 月 25 日	仲谷 将史（院生）	First Place Poster Award	The 44th annual International Congress on Applications of Lasers & Electro-Optics (ICALEO2025)



## 人事異動

## 【着任】

2025 年 5 月 1 日	助教	PALAI DEBABRATA	採用
2025 年 6 月 12 日	派遣職員	川村 恵里	採用
2025 年 10 月 1 日	特任講師	青木 祥宏	採用
2025 年 10 月 1 日	事務職員	一村 真佑子	配置換

## 【離任】

2025 年 8 月 31 日	助教	ZHOU HONGCHANG	退職
2025 年 8 月 31 日	技術補佐員	安部 由朗	退職
2025 年 9 月 30 日	特任助教（常勤）	水谷 正海	退職
2025 年 9 月 30 日	技術補佐員	花見 眞司	退職
2025 年 9 月 30 日	主任	林 直哉	配置換
2025 年 9 月 30 日	派遣職員	川村 恵里	終了

## お知らせ

## 2026 年度共同研究員募集について

毎年、多くの方に共同研究員に応募して頂きありがとうございます。2026 年度につきましても共同研究員の募集を行っております。

募集要項は、[接合科学共同利用・共同研究拠点のウェブサイト](#)に掲載しております。

## 編集後記

大阪大学月面都市開発研究センターが設立され、その設立記念シンポジウムが開催されました。月面で人類が暮らしていく上では、宇宙環境でのものづくり技術を確認する必要がありますが、そこでも接合は欠かせない技術となりますので重要な研究対象です。さらに、宇宙という極限環境における材料物性の評価も学術的な研究対象として非常に興味深いです。月面都市開発を通じた研究によって新技術を開発することで地球上における生活に役立つことも期待されます。現在、接合科学研究所では学会だけでなく、様々なイベントやセミナーなどを通して研究成果についての情報発信をしておりますが、月面都市開発に関する研究成果についても楽しみにしていただければと思います。引き続き、皆様のご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（山下 享介）

阪大接合研ニュースレター No. 57

2025 年 12 月 発行

発行：大阪大学 接合科学研究所

編集：接合科学研究所 広報企画委員会

〒567-0047 茨木市美穂ヶ丘 11-1

TEL: 06-6879-8678 FAX: 06-6879-8689

URL: <http://www.jwri.osaka-u.ac.jp/>

✕@JWRI1972